

**第8回東京都地域危険度測定調査委員会**  
**平成28年度（第2回） 議事要旨**

日 時 10月3日(月) 10:00～12:00

場 所 東京都第二本庁舎 10階 209会議室

出席者 【委員・専門委員】

中林委員、山崎委員、糸井川委員、市古委員、大佛委員、樋本専門委員、  
山本専門委員（代理者）、中村専門委員（代理者）、山下専門委員

【関係機関】

小川課長、松岡課長（代理者）、坂本課長（代理者）、山下課長（代理者）、  
清水課長

（議事内容）

委員会では、議題に沿って以下のような内容の検討や意見交換が行われた。

1. 検討事項と地域危険度測定調査(第8回)のスケジュールについて

○事務局より検討事項と平成28年度検討スケジュールの変更案について説明

- ・ (委員了承)

2. 建物倒壊危険度の測定について

○事務局より建物倒壊危険度測定に関する検討状況等について説明

- ・ 耐震性のある大規模建築物の除外、建物量を延床面積表示とした危険量測定など、良い結果が出たと思う。
- ・ 阪神淡路大震災後2000年ごろから耐震改修を実施してきて、確実に実施している地域の成果は表れている。
- ・ 延床面積単位にするとビル街の危険量は高く出る。これまでの測定方法との連続性も考えなければならない。
- ・ 大規模建築物が増加している現状において、従来の測定方法を継承しつつ、安全な超高層を除外し、耐震改修した建築物を評価するということだと思ふ。棟数単位だとほとんど変わらないが、耐震改修の実施など施策的な取り組みを反映するための改善をしたということである。
- ・ 基本的には、都心部より木密地域が危険ということになるが、ビルが1棟、2棟倒れると、木造が数十棟倒れたものに匹敵するインパクトはあるということ知ってもらいたい。
- ・ 調査結果は、あまり似たような図面を表示して混乱しないようにしないといけない。

3. 火災危険度の測定について

○事務局より火災危険度の測定に関する検討状況等について説明

- ・ 「出火件数期待値」は、数学的には確率の方がよいと思う。
- ・ 元々、出火件数期待値×平均焼失面積だった。
- ・ 過去に議論されてこの形を踏襲されているのなら、これでよい。
- ・ 火災危険量の算定式については、概念に合わせて表現の仕方を検討していただき

たい。

- ・ 式の概念説明のところを少し丁寧にしておくべき。

#### 4. 災害時活動困難度の測定について

○事務局より災害時活動困難度の測定に関する検討状況等について説明

- ・ 公園・緑地等を除外に係る $\alpha$ の改良点は、全ての地域危険度の測定の対象となる町丁目の面積を統一するという事か。  
→建物倒壊危険度、火災危険度、同様に災害時活動困難度も同じ町丁目の面積にする。
- ・  $\beta$ の方は、県境や川や線路などに囲まれている等の特殊な地域についてどのように見るか考えたほうがよい。
- ・ 第8回で新しくできた町丁目は、第7回との比較はできないので差分は示さなくてよい。

以上